

2 新たに提案する道路計画の考え方

(1)道路の構造

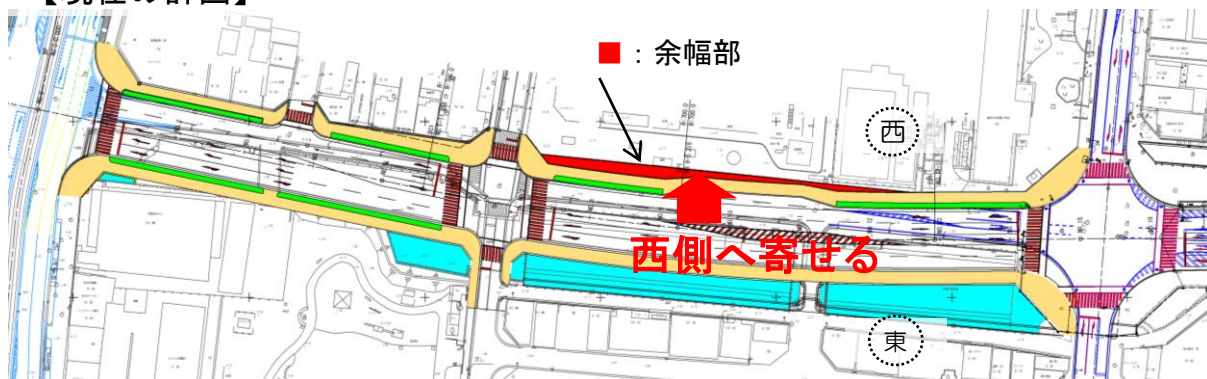
■道路構造の決定

- 道路の構造は、道路法第30条に基づく政令（道路構造令）により決定します。
- 平成21年1月に「柔軟性のある道路構造令のあり方検討委員会」の提言を受け、地方の実情に即した道路構造令の弾力的運用が図られています。
- 平成23年の道路法改正により自治体への条例委任がなされ、平成24年には、道路管理者（高知県）が道路構造令を参酌し条例により基準を定めています。

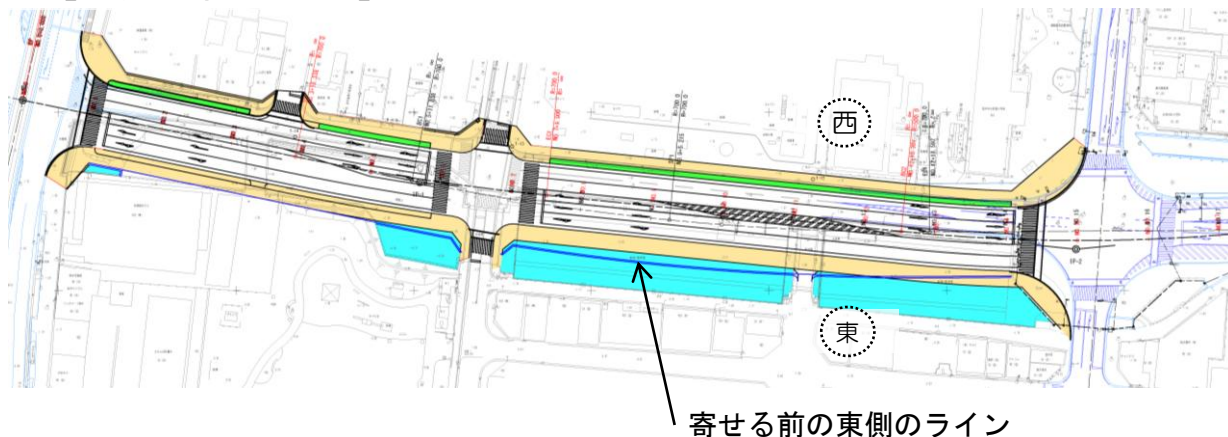
STEP-1：線形の見直し（道路を可能な限り西側に寄せる）

- 設計速度50km/h → 弾力的運用により40km/hに見直し（カーブを短く、少しきつくする）

【現在の計画】



【西側に寄せた計画】



STEP-2：幅員の見直し（道路の幅を縮小）

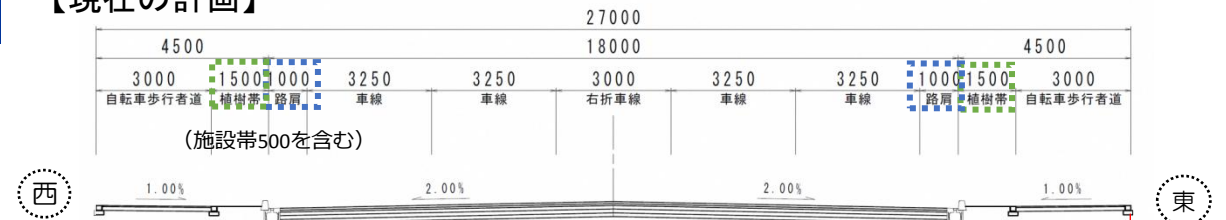
①植樹帯の削除：2.0m縮小（1.0m×2）

西側：はりまや橋小学校の校庭の樹木による緑陰の創造等が可能であるため設置しない
 東側：棧橋区間となり構造上植樹ができない（これまでの計画はプランターによる代用を想定）
 ※0.5mは縁石や柵・照明を設置する施設帯として必要

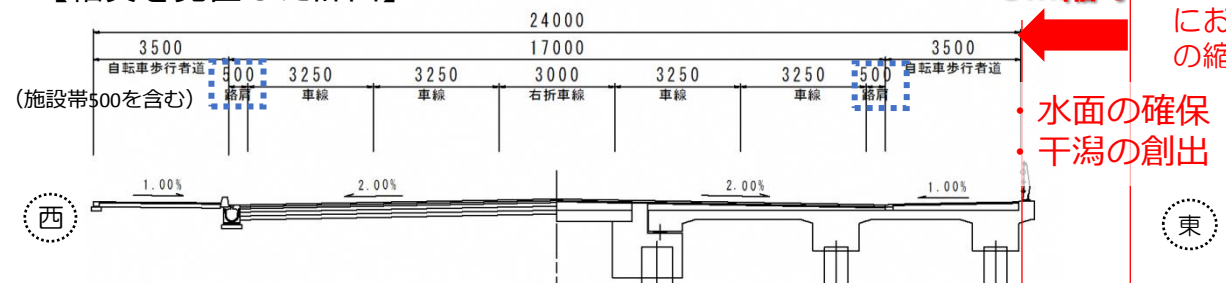
②路肩の縮小：1.0m縮小（0.5m×2）

道路構造令が定める最小幅である0.5mに縮小

【現在の計画】



【幅員を見直した計画】



3m縮小 ※駐車場撤去部
 においては2mの縮小

- 水面の確保
- 干潟の創出

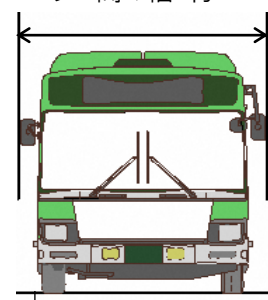
幅員の見直しを行わない箇所

①車道（3.25m、3.0m）

- 大型バスの安全なすれ違いのため、車道幅3.25mを確保する
- 交差点部の左折レーンについては、縮小規定により3.0mとする

■大型バスの規格

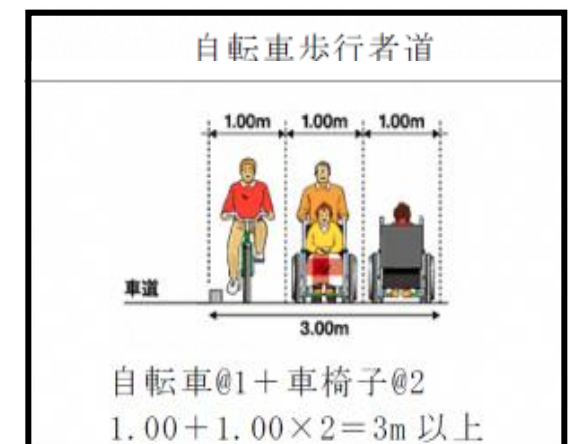
ミラー間の幅：約3.0m

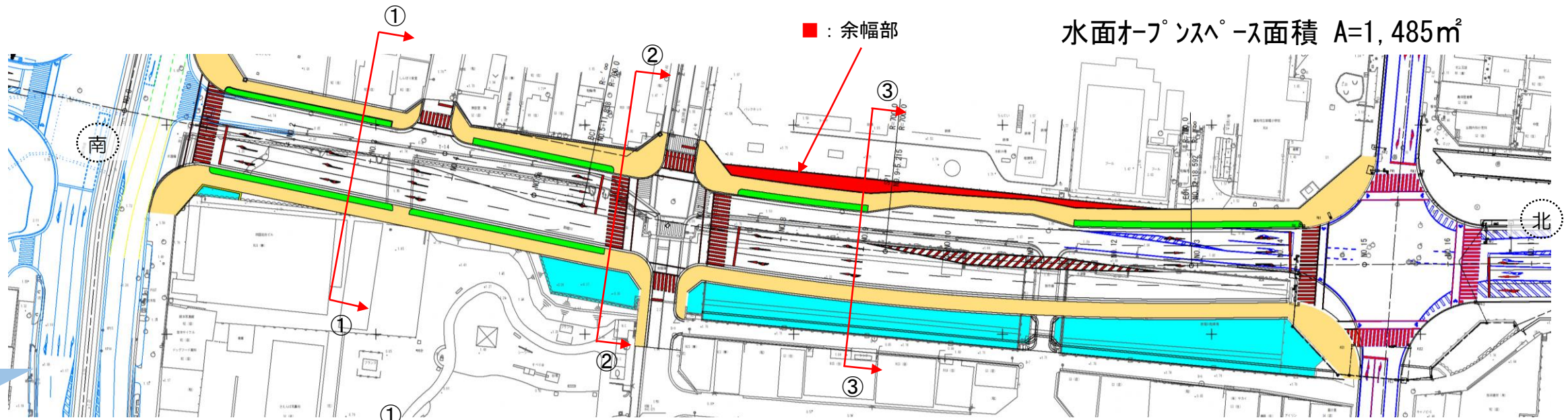


車両幅：約2.5m

②自転車歩行者道（3.0m+0.5m）

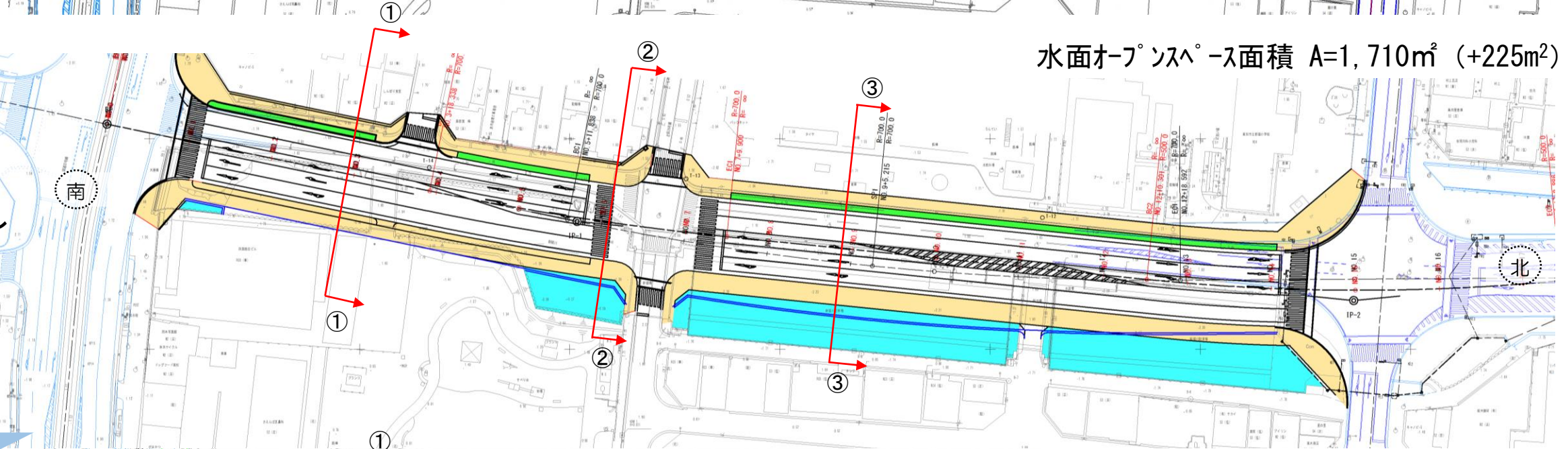
- 自転車や車いす等を安全に通行させるため、幅員3.0mの確保が必要
- 道路施設を設置するため、0.5mの施設帯が必要





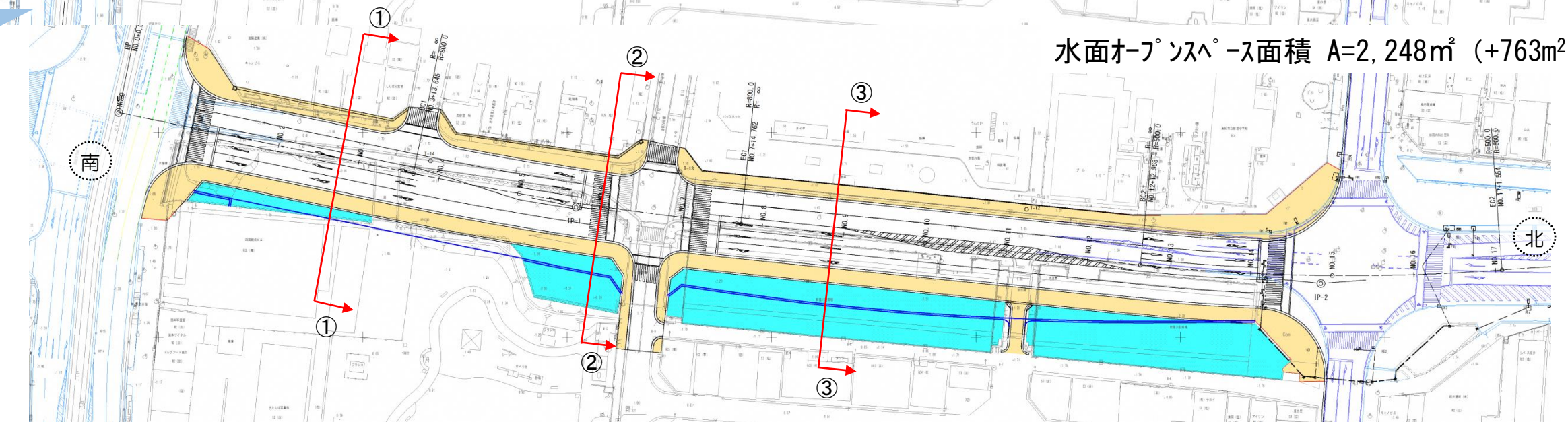
現在の
道路計画
(H14)

西側へ
寄せる



線形見直し

幅を
縮小



線形+幅員
見直し

※水面オープンスペース面積の()内は現在の道路計画と比較

断面①-①
(四国銀行前)

断面②-②
(横堀公園前)

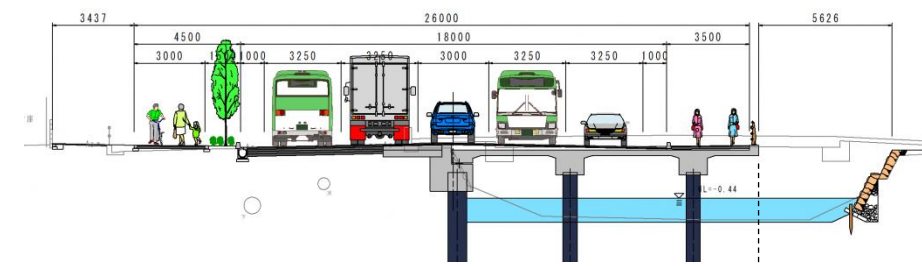
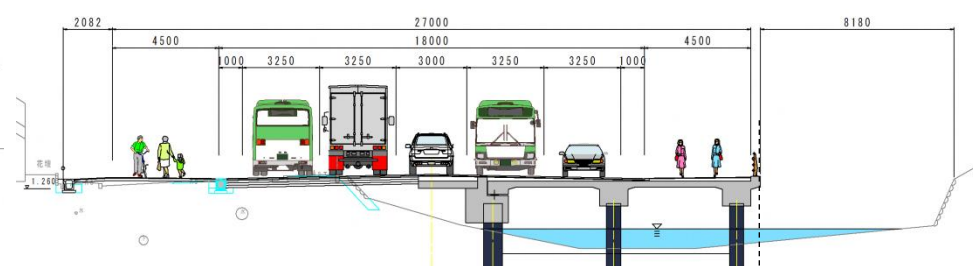
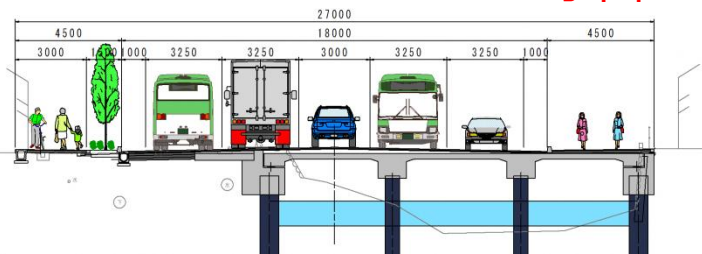
断面③-③
(駐車場(廃業)部)

○現在の道路計画

水面0.0m

水面8.2m

水面5.6m

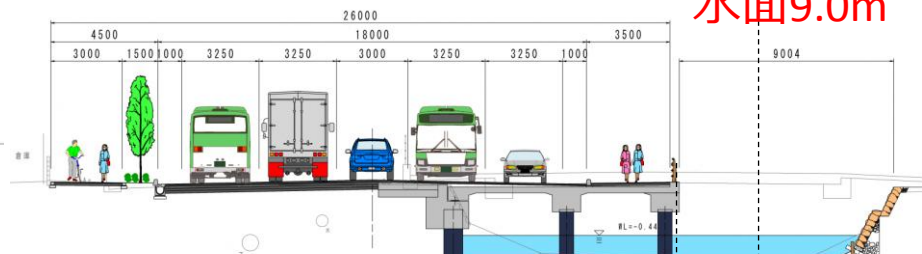
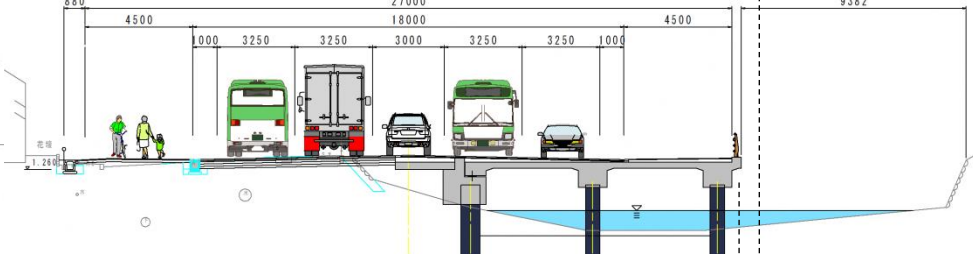
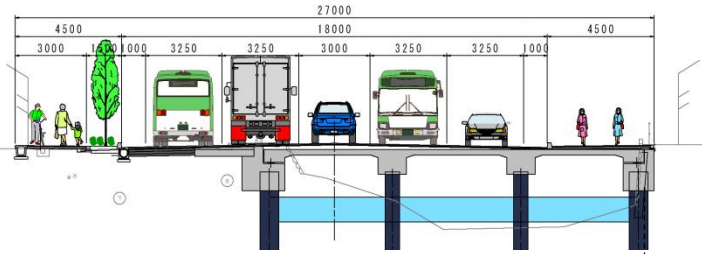


○線形見直し

水面0.0m

水面9.4m

水面9.0m



1.98m

3.31m

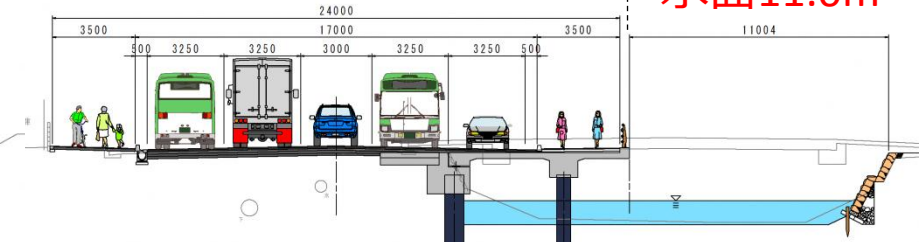
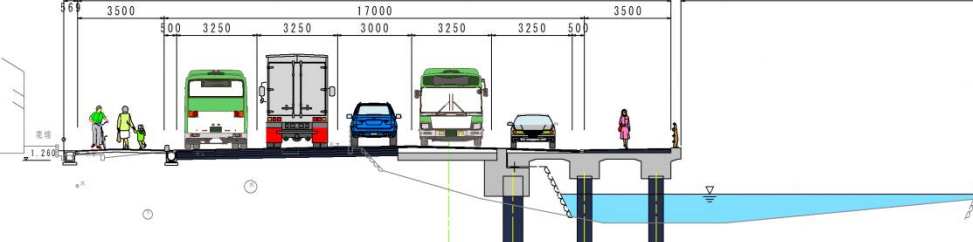
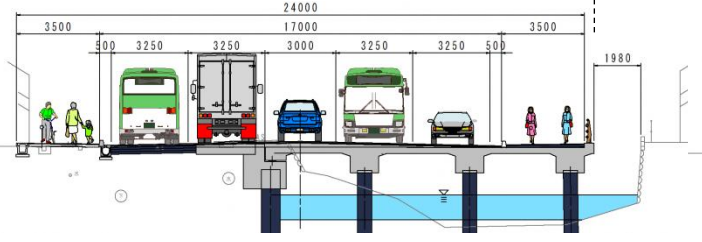
2.0m

○線形+幅員見直し

水面2.0m

水面12.7m

水面11.0m



4.51m

5.44m

3.44m

1.20m